



- 家庭教育支援チーム研修
- 「虹色企画」羽後町訪問
- リーダー養成講座①
- 旭北小「竿燈の継承」
- サポーター養成講座①
- 調査研究報告書の概要

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

平成30年度学校・家庭・地域連携総合推進事業家庭教育支援指導者等研修

本県では、地域人材を中心としたチームで家庭教育を支援する「家庭教育支援チーム」の設置を推進しています。本研修は、市町村においてチームの中核となる「リーダー」と、地域人材となる「サポーター」を養成する目的で年間3～4回開催される予定です。

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座①(7月6日 秋田県生涯学習センター)

テーマ 「家庭教育支援の優れた活動事例を知ろう」

実践紹介

みんなで子育てする社会づくりのために
(子育て応援隊コネットあもり代表理事 沼田久美 氏)

講義

秋田県の家庭教育支援の現状と課題
(県教育庁生涯学習課社会教育主事 森川勝栄 氏)

43人が参加したリーダー養成講座①は、講師の豊富な実践に基づく活動事例の講義や多彩なグループワークで盛り上がりました。



家庭教育支援チーム・サポーター養成講座①(7月13日 秋田県生涯学習センター)

テーマ 「子どもや親と向き合い、上手に話を聞く方法を学ぼう」

講義

子どもの発達と特別支援の理解
(天王みどり学園教育専門監 島津憲司 氏)

講義・演習

聞き上手になるために ～「傾聴」のスキルを学ぶ～
(アクティヴリッスン代表/日本傾聴ボランティア研究センター理事長 澤村直樹 氏)

47人が参加したサポーター養成講座①は、子どもとの接し方や傾聴のスキルに関する示唆に富む講義内容と演習で充実しました。



虹色企画

訪問インタビューシリーズ 第5回 羽後町教育委員会 大久保 聡 教育長

一 子ども育成が町政の鍵と聞か

羽後町版地方創生プロジェクト「うごまち未来の学校」では、「まちの未来をつくる人と場所を育てる」ことをコンセプトにしている。今、町を挙げた「未来を担う子どもの育成」が動き始めた。

一 地域・学校の連携・協働に向けて

学校統合を機に地域と学校の繋がりを改めて見直し、地域コミュニティのさらなる活性化を図りたい。そのため、平成29年度から教委事務局に社会教育主事を配置して、地域と学校の架け橋となるようにした。現在は、学校運営協議会制度の導入に向けて、管下1校で先行実施に取り組んでいる。

緑と踊りと雪の町 羽後町

出合いが財産



羽後町教育委員会
大久保 聡 教育長

一 羽後町生涯学習のこれから

少子高齢化や地域間格差が進む中で、ますます多様化する学習ニーズは、逆に、町民一人一人の個性や能力を「まちづくり」に活かすためのツールともなる。しかし、学びの内容や環境のハードルが高すぎると一部の人のみの生涯学習になってしまう。老若男女による世代間交流をとおして、一人一人の出合いが財産となる羽後町の生涯学習になればと思っている。

「種を蒔く、芽が出る、生長が心配、でもめんこい、畑仕事は楽しい」と破顔一笑。教育長さんの深い教育愛を感じるお話でした。

7月13日(金)旭北小体育館から、お囃子と子どもたちの元気な声。竿燈まつりに向けた旭北小竿燈クラブ(32名)の練習が真っ盛りでした。

旭北小では、地域の方々の協力を得ながら竿燈の差しや笛・太鼓のお囃子の技術を学び、竿燈の伝統を継承する取組を続けています。

差し手リーダーの6年生佐川理泰(さがみわた)さんは、「今年は小若最後の年。妙技会で上位に入れるよう技を磨き、来年からの山王中での中若も頑張りたい。」と話していました。6月末から始まった練習も、夏休みになるといよいよ佳境に入ります。旭北小の暑い夏、間もなく出番です。



調査研究 ミニセミナー

「平成29年度秋田県生涯学習センター調査研究報告書」概要

当センターが昨年度実施した調査研究における県立学校実践事例の一部を紹介します。なお、調査研究の全容については「調査研究報告書」を当センターホームページに掲載中ですのでご覧ください。

連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究

～ 多様な連携・協働事例から見る社会教育行政の役割と可能性に関する考察 ～

調査研究の趣旨・目的

学校を核とした地域力の向上を目指して

本調査研究では、高等学校や特別支援学校高等部における地域との連携・協働に関する具体的な取組や意向について情報収集と傾向の分析をし、今後の社会教育行政の果たす役割と可能性を考察しました。

実践事例の紹介

秋田県立十和田高等学校 「ふるさと教育『かづの学』」

十和田高校では、鹿角市、JAかづの、秋田県畜産農業協同組合、十和田地域づくり協議会、地元企業などとの連携・協働を通じた「ふるさと教育『かづの学』」に取り組んでいます。1年生には「研究の基礎」講座、2年生以上には、商業、農業、鉱工業、文化の4領域それぞれ4～5講座について、相互に関連し学びを深める体制となっています。



〈「かづの学」発表会〉

取組の一例としては、「鹿角発ブランド農産物の地域展開～かづの牛の生産構造と流通形態～」における研究成果の地域への発信、「かづの畜産まつり」へのボランティア参加などを通じた、かづの牛と地域との関係に直接関わる学びがあります。

成果として、地域の大人が、どのような活動を通してコミュニティの存続・維持を図っているのかが理解できたことや家庭と学校という限られた生活空間が地域にも拡大したことで、進路選択をも含めた広範な視点で考えることができたことなどがあげられます。

七色

5年前のデータですが…。共立総合研究所が、2013年度全国学力・学習状況調査をもとに「子どもの育ちの質」について総合的に評価した「いい子どもが育つ」都道府県ランキングでは、秋田県が総合1位でした◆11分野中、生活習慣、意志・人格、道徳・規範、社会への関心、コミュニケーション能力、体験の6分野が1位。46設問中32問が5位以内で、その内20問がトップ。一方、「家の手伝いをしているか」と「携帯・スマホは、家の人との約束を守っているか」の2つの設問は、47位で最下位でした◆「手伝い」は、小さな役割から主体的な関わりを学ぶ機会となり、「約束(ルール)」は、考えや性格の違う人たちが「仲良く助け合う」ことを学ぶきっかけとなります◆家庭は、子どもの感情、情緒、知性、知力などが培われる文字通りのホームグラウンドです。しかし、家庭には学校のようなカリキュラムはありません。ですから、保護者の考えや言動こそが、家庭教育の根幹たる「子どもの育ちの質」に関わる隠れたカリキュラムなのだと思います。